

第37回全国都市緑化ひろしまフェア
都市緑化シンポジウムin世羅

自然を活かした 持続可能な地域づくり

～豊かな里山のシンボル”ヒョウモンモドキ”を例として～

青々をと広がる田んぼ、山、小川、そこに生息する多様な生き物たち、暮らす人々、歴史や文化など、里山と呼ばれる農村はかけがえのないものであふれています。世羅町と三原市が最後の生息地となった絶滅危惧種の蝶「ヒョウモンモドキ」をモデルとして、豊かな里山の自然を持続可能な地域づくりにどう活かしていけばいいのか、ふるさとと豊かな自然を未来へつなぐための方策を探ります。

写真 第3回生きもの写真コンテスト優秀作品賞「生きる！ 増える！ヒョウモンモドキ」村上八雲さん(尾道市)

- 日時 2020年9月19日(土) 13:00～16:30
- 場所 世羅町甲山農村環境改善センター
- 参加 無料 定員200名
- 内容

★インターネットでオンライン配信します！

【基調講演】

講師 海野和男さん(昆虫写真家)
演題 小諸の庭の自然と世界の熱帯地域を
旅して考えたこと

【学校での取り組みについて】

発表 三原市立久井小学校

【パネルディスカッション】

里山の自然の保全と、生き物をシンボル
とした 地域のブランディング

【児童・生徒の絵や活動のパネル展示】

世羅小学校、三原市立大和小学校ほか



海野和男さん(昆虫写真家)
プロフィールは裏面に記載しています。

■お問合せ先
第37回全国都市緑化ひろしまフェア実行委員会
事務局 Tel.082-512-2315

※新型コロナウイルス感染防止のため、入場制限を行う場合があります。



(パネリスト)

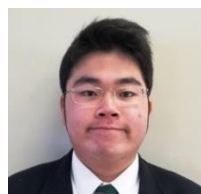
中村康弘さん(NPO法人日本チョウ類保全協会事務局長)

大阪府立大学修士課程時(1996-1997年)に、当時、もっとも絶滅が危惧されていたチョウの一つ、ヒョウモンモドキの保全のための研究に取り組む。その後、ヒョウモンモドキの調査・研究を継続するとともに、2001年にヒョウモンモドキ保護の会の立ち上げに参画した。また、全国的なチョウの保全を目的とする日本チョウ類保全協会を2004年に設立し、現在、同団体の事務局長として、北海道から九州まで、全国各地でチョウの保全に取り組んでいる。



須内美穂子さん(ヒョウモンモドキ保護の会副事務局長)

農家の主婦。米作は委託して家庭菜園や家の周囲の管理をしている。2003年当時、勤務していた世羅町の小学校でホタルの飼育に取り組んでいるときヒョウモンモドキについて知り、2001年に設立されたヒョウモンモドキ保護の会に入会する。以来、私の地域にもかろうじて生き延びているこの蝶の保全に取り組みながら、同志の人たちとのかかわりも楽しみながら活動が続けている。三原市大和町在住。



岡田匠平さん(世羅高等学校農業経営科3年)

三原市立久井小学校時代にヒョウモンモドキの保護活動に取り組んでいました。高校入学後、保護活動が継続されていることを知り、再び活動を行いたいと思うようになりました。農業科の知識と技術を生かし、種からノアザミを栽培し、黒洲地区などの自生区に植える活動をしています。これからはこれらの保護活動を通して環境保全型農業をPRし、それによって付加価値を高めた農産物の生産に結び付けていけるように頑張りたいです。三原市久井町在住。



吉宗誠也さん(株世羅高原農場代表取締役)

世羅高原農場(さくら・チューリップ・ひまわり・ダリア)、Flower village花夢の里(芝桜とネモフィラ)、そらの花畑 世羅高原花の森(イングリッシュローズ)の季節営業の観光農園三施設を運営しています。花はみんなをしあわせにするというメッセージを込めて世羅の気候風土とともに感動の花風景をお届けしています。一般社団法人世羅町観光協会副会長。世羅町在住。

(コーディネーター)

白川勝信さん(芸北高原の自然館学芸員)

広島県芸北地域で、湿原、半自然草原、里山林など、地域の人間活動によって維持されていた生態系の保全をテーマに博物館活動を展開している。子ども、事業者、行政、ボランティアなど、様々な主体による自然への関わり方を見直し、新たな仕組みを組み込みながら、地域と自然を将来に残していく道を模索している。2003年4月より芸北高原の自然館に学芸員として勤務(現職)。2017年に第1回ジャパンアウトドアリーダーズアワード大賞受賞。専門は生態学(博士(学術))。

